

講演会 初等教育学会講演会を聴いて

初等教育学科3年 池田 康輔

2009年11月14日(土)、安田女子大学教授で広島大学の名誉教授の片上宗二先生を講師としてお招きし、「学習指導要領の政治的、理論的、実践的役割とその位置づけ方—小学校社会科学習指導要領の場合を中心に—」というテーマでご講演を聴くことができました。

学習指導要領は、アメリカのCourse of Studyを参考にして試案としての位置づけから法的拘束力を持つようになったことや、イギリスのNational Curriculumと比較すると、教育の出口としての教育目標に到達度を示す指標が組み込まれていないことなど、日本の教育にはどのような特質があるのかについてお話していただきました。また、片上先生は、新学習指導要領に小学校社会科の作成協力者として深く関与されており、例えば学習指導要領の改訂という作業が、理論や実践上の課題への対応だけでなく、政治的影響も受けている等の興味深い話も伺うことができました。



学習指導要領は、教育内容を示す基準であり、それらの目標を基に授業を構成していくことは、簡単なようで難しいものです。しかし、この難しさが日本の授業レベルは世界と比べて高水準であることを示していると思います。今回の講演は、教師を目指す私たちにとって、学習指導要領のあり方を今一度考えさせてくれる良いきっかけになりました。将来、教育現場に出たときにもこの知識を無駄にせず、よりよい授業づくりができるよう精進していく決意です。

学会に参加して

初等教育学科3年 中塚 拓貴

10月24日に広島大学で行われた理科教育学会中国支部大会に参加してきました。周りは大学教授と大学院生ばかりという状況。すべての研究を理解することは不可能なので「児童の興味・関心」に関する研究は理解しようと発表を聞いてきました。発表の中でも「科学館との連携」「理科授業における学び合い」はとても興味を引かれました。せつかくの大学生活です。皆さんも一度学会に参加してみたいでしょうか。



インターンシップ 実習を終えて

インターンシップ

保育園

初等教育学科1年
関野 早起

私は、8月17日から21日の5日間、保育所へインターンシップに行きました。実際の保育の現場に立って見て、子どもの成長を間近で見たり、その成長と一緒に喜んだり嬉しいことが多くありました。また、毎日の保育日誌の記入や月案や週案など、子ども一人一人をしっかり理解し、観察しないとわからない事がたくさんあり、日々の保育の大切さも学ぶことができました。また、先生同士声を掛け合い助け合うことで、全員が子どもの様子を把握し、さらに、集団の中の一人一人にも対応できるように立ち位置なども気をつけ、視野を広く持つことも大切なことだと感じました。

私は、このインターンシップを通して、保育士の仕事の喜びや厳しさを体験することができ、保育士になりたいという気持ちをさらに高めることができました。これからのボランティアや実習などでは、このインターンシップの経験を生かして、子どもとの信頼関係を築いていき、保育士になるために日々励みたいと思っています。



私は8月20日～25日の期間、宇野学童保育へインターンシップに行ってきました。最初、私は「児童」ではなく「先生」の立場で学校へ行くのが初めてで子どもたちと仲良くなれるかとても不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、行ってみると子どもたちのほうから元気よく声をかけてくれ、「よし！自分も負けてられない！」と、さらに元気よくみんなに声をかけることができました。今まで子どもが好き



という気持ちだけで教師という道を目指していましたが、実際の現場で子どもたちと一緒に遊んだり会話したり共に生活していく中で、このような時はこのように先生は対応する。など、現場にいないと決して学ぶことができない事をたくさん経験できました。そして、そのおかげで自分がなぜ子どもが好きなのかより明確になり気付くこともできました。

今回のインターンシップを経験させてもらっても貴重な時間が過ぎ、学童や大学の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。これからも、もっと教育や子どもについて学び実際の場で活躍できるように頑張りたいと思います。

インターンシップ

小学校

初等教育学科1年
亀竹 敏樹

保育所実習

初等教育学科2年 長谷川直哉

保育所実習は今まで勉強してきたことを発揮する場であり、自分達にとって初めて実際の現場で指導を行うということで、私は不安でいっぱいでした。指導をする際の指導案・実習日誌など慣れない作業も多く、実習中は毎日がとてもしんどくて、「自分は本当にやっつけられるのだろうか」と何度も考えました。しかし、せつかくの貴重な時間なのだから、思いっきりやろうと気持ちを切り替え、自分なりに一生懸命実習に取り組みました。

私が担当したクラスは4歳児26名のクラスでした。最初はとても緊張して子どもと上手く関わることができるか不安でしたが、子ども達が笑顔で自分の方に寄ってきてくれたので、そんな不安な気持ちはすぐにどこかへ吹き飛んでしまいました。実習中は楽しいことばかりではなく、指導が上手くいかないなど自分自身落ち込む時もありましたが、子どもの笑顔を見るとすぐに元気になる、朝保育所に行く前に「子ども達が今日も自分を笑顔で待っている」と考えると、どんなに疲れていても「今日も1日笑顔でがんばろう」と前向きな気持ちで実習に臨むことができました。毎日の指導では、その日の担当の先生との反省会や、実習日誌での振り返りをしていくことによって徐々に4歳という年齢の子どもの特徴を理解し、一人

施設 実習

初等教育学科2年
北村 望

私は10日間の施設実習を通して、障害を持つ方への考え方がとても変わりました。障害者施設に入っている方は、自分で身の回りのことができないから入所しているというイメージがあったのですが、決して自分のことが何もできないわけではないと知りました。今までできなかったことができた時には、利用者さん本人だけでなく、周りにいる職員、他の利用者さんも一緒になって嬉しいという気持ちを表現し合っていました。できることが増えた嬉しさは、次への自信ややる気へ繋がり、周りが自分のことを認めてくれているという安心感などが重なることで、より自分でできることも増え、一人一人の生活が豊かになっていくのだと感じました。一緒になって喜び、

気持ちを共有しようとする利用者さんの姿を見て、私は障害を持った方も障害がない方と何ら変わらず、お互いに相手を理解しようという思いがあれば、誰でも気持ちを通わせることができると強く思ったと同時に、障害を持つ方々にも素敵な一面が数え切れないほどあるということをもっとたくさんの人に知って欲しいと感じました。



幼稚園実習は私にとって初めての経験でした。事前訪問で担当の先生との顔合わせが出来なかったこともあり、始まる前はとても不安でした。初日、2日目はなかなか幼児に話しかけることができず、保育室の後ろで様子を見ていることが多かったのですが、まず朝元気に一人一人の名前を呼んで挨拶を交わすところから始めました。それからはだんだんと幼児たちと打ち解けることができ、毎日が発見の連続で今日はどんなことがあるのだろうと園に行くのが楽しみになるくらいでした。

部分実習でリレーの指導をしたのですが、はちまきの数を揃えてなかったことで人数が偏ってしまったというまくいかなかったことなど、失敗も多く経験しましたが、環境構成の大切さを体感するなど学ぶことがたくさんありました。また、担当の先生には

丁寧な指導して頂き、前向きになれるような助言をして頂いたので、失敗を恐れずに頑張ることができました。私は実習仲間にもたくさん支えられました。休憩時にはお互いの指導などの感想を話し合ったり、準備などをしたりすることによって実習を共に頑張り、乗り切ることができました。

今回の実習で、幼児に真正面からぶつかっていけばその気持ちは伝わるということを体感することができました。また、何よりも子どもとかわるごとの楽しさを改めて感じ、今でははっきりと教師という職に就きたいと思うようになり、私を大きく成長させてくれた貴重な経験となりました。



幼稚園 実習

初等教育学科3年
久野真理子

ひとりに合った働きかけができるようになっていきました。最終日には20日間の総まとめとして研究保育をさせていただきました。保育案や遊びの展開の図の作成、保育所の先生方全員が見に来る中での遊びの指導など、初めてのことでとまどいもありましたが、とてもいい経験になりました。

20日間の実習で様々なことがありましたが、同時に子どもと関わる仕事に対してもやりがいを感じ、今まで以上にこのような仕事に興味を持つことができました。たくさん失敗もし、きつと感じることもありましたが、そこから逃げずに、前向きに取り組めたということは、これからの自分の力になると思います。正直言うと、「学生なのだからもっと遊びたいな」と思う時もありましたが、4年間ある大学生活の、2年目の夏というタイミングでこういった実習を経験できたということは、自分にとってかけがえのない経験だと思います。今後自分をさらに高めるためにも、この実習で自分が学び、感じたこと、また新たに見つけた課題などを忘れず、これからの普段の生活、学校での勉強、後の実習に生かし、がんばりたいと思います。

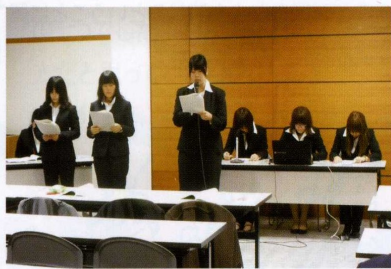


中・四国保育学生研究大会に参加して

初等教育学科1年 中野 結加

私たちは12月5日に山口県下関市の山口県貿易国際センターで行われた、第50回中・四国保育学生研究大会に参加してきました。この研究大会は保育士養成学校の学生と教員を対象とし、これからよりよい保育を目指すため開催されているもので、今年は約30校の大学、短期大学、専門学校が参加して研究の成果を発表しました。

私たちは「子どものおしゃれに対する保護者の意識」と題し、5ヶ所の保育園で行ったアンケート調査をもとに、自分たちが考察した結果を発表しました。アンケートの作成・集計や読み原稿、パワーポイントなどがどんどん完成されていくのを見ると、実習もあって大変だったにもかかわらず、これだけのものができるのかと改めて先輩のすごさを感じました。今回この研究大会に参加させていただいて、アンケート集計の難しさや、おしゃれと現代社会の関連性、表現の仕方や語り方、子どもに関するさまざまな問題など、どれをとっても勉強になることばかりでした。



また、一生懸命発表している学生を見ると「自分も頑張ろう!」とこれからの学習に対する意欲も湧きました。来年も機会があればぜひ参加し、今年よりさらに多くのことを学びたいです。

最後になりましたが、この研究大会に協力してくださった各保育園の先生方、保護者の皆様、就実大学の先生方、本当にありがとうございました。

中四国研究発表大会も見て

初等教育学科2年 古川 雄一
3年 池田 康輔

私たちは、研究大会での発表を通して勉強し、保育士としての知識や技能を身につけるために見学者という形で参加しました。残念ながら、すべての研究発表を聞くことはできませんでしたが、口頭発表では、変容し続ける昨今の社会において的確な問題提起をおこなっていたり、教育現場に導入しやすいようにしたりと、さまざまな手法で研究が行われていました。『子どもの遊び場についての調査研究』や、『乳幼児の発育を促す物的環境としてのおもちゃ』などの研究の理解を通して、子どもを取り巻く環境がこどもの生活や発達に影響を与えやすいことが分かりました。実技発表は、主に劇で、「からだ全体を使って表現するのだから簡単な分野だろう」という先入観がありました。しかし、教育のねらいをうまく劇に反映させて発表している学生たちを見て、実技の難しさや奥深さを感じました。

すべての研究発表が終わって行われた学生交歓会では、いろいろな大学や短期大学との意見交換といった交流を行い、各々の保育に対する情熱に感化され、保育に対する勉強意欲を得ることができました。

研究の語義は「研ぎ澄ましてよく考え、真理を究めること」です。まさに彼らはこの言葉通りに研究を遂行しており、どれだけの時間と労力をかけて研究を行っていたか、想像がつきません。彼らの努力の賜物で得られた研究の成果を無駄にせず、これからの保育士のあり方として理解していく所存です。



私の部活

ひと昔前のお笑い芸人のコントが演劇みたいで面白かったこと、その影響から役者をやってみたくて思った。そんな理由で演劇部に入部しました。

大学に入るまで演劇経験がまったくないのに、そんな単純な動機でよく今まで活動してこれたなと感じます。実際の演劇とは私が思っていたほど単純なものではなく、考えれば考えるほど深いものでした。この時の登場人物の気持ちは？この場面に合う音は？照明は？など考え出すと頭がぐるぐるしてしまう、といった感じです。また、今でもまだ手探り状態で演劇についてよくわからないことが多いです。

私は考えることが苦手で、口下手なほうなので、活動の中で上手いかないけないことや失敗して落ち込むこともあります。様々な人に支えられて、様々な人との関わりがあって今日まで活動できています。そして、同様に様々な人のおかげで演劇ができています。

弓道を通じて

私は3年間弓道部に所属しています。最初の頃は流派の違いや高校時代に付いた癖が直らず、他の同期は試合に選抜されていくのに、私は選抜されるどころか安定して的に当てることもできない日々が続きました。2年の施設実習中、先輩からお電話をいただき、副将になってほしいと告げられました。正直私が幹部になるとは予想もしておらず、戸惑いましたが、こんな私を選んでいただいた先輩の気持ちに伝えたいと思い、受けることにしました。それからは学科のことで部員に迷惑をかけることもありましたが、自分の出来ることを精一杯しようと今まで取り組んできました。今まで以上に練習に励み、試合に選抜されると試合前には毎日のように夜遅くまで練習し、お陰で他大学との試合で優勝したり一般の大会で優勝したりと結果を残せるまでになりました。目標に向かって努力すること、そして弓道についてだけではなく、マナーや礼儀など、これから社会人として生きていく上で必要なことをたくさん学びました。

初等教育学科2年 岸本亜由美

今の演劇部での活動動機は様々な人と関わることが嬉しいこと、お客さんの反応が楽しみだからです。様々な人から様々な影響を受け、活力をいただき、部員みんなで一つのことに取り組むということは、時にぶつかり合うこともあるけれど、部員の気持ちを一つにまとめてくれるものでもあり、本当に楽しいです。私が初等教育学科の学生だからかもしれませんが、人と関わりという部分や、演じるという部分はなんだか保育の一部分と似ていると感じています。

人と関わることが好きな人や演じるということに興味がある人は演劇部に入りませんか？



初等教育学科3年 石原 好野

弓道部に入部して、大変なことも辛いこともたくさんありました。それでも途中で諦めず続けてこられたのは、弓道が好きだということと、周りで支えてくれる部員たちの存在でした。弓道部に入っていなければこんなに充実した大学生生活は送れなかったと思います。後輩たちにもこんな風に充実した大学生生活を送ってほしいと思います。



就実初等☆

チャイルドパーク

初等教育学科1年 繁山 奈央

チャイルドパークは主に、体操・オペレッタ・工作の3つで構成しました。チャイルドパークに関わったのは、1・2年合わせて24人で2年生を中心に組みました。しかし、実習など、なかなか全員揃って練習が難しく、本番当日まで成功するか不安でした。また、当日までに大学付近の幼稚園・保育園・小学校に宣伝はしましたが、実際に子どもたちが集まるかどうか心配の1つでした。正直、私は20人来てくれたら良い方だと思っていました。

しかし、当日参加してくれた子どもの人数は約60人で、予想をはるかに上回りました。その上、子どもたちの反応もとても良く、楽しそうにしている姿や笑顔を見ると、とても嬉しく、安心しました。そのような喜びがあった分、反省点も見つかりました。1時間の短い時間だったけれど、そういった点でもとても充実した時間を過ごせたと思います。



お池にはまって



《どんぐりころころ》の作詞者青木存義の故郷、宮城県松島町の小学校ではおなじみの2番までの歌詞に加え、3番がつけられ歌われているということをつい最近『絵でつく日本の歌』（長田暁二監修ヤマハミュージック発行）で知った。それによると2番でお山が恋しいと泣いてどじょうを困らせたどんぐりのところへ3番では「なかよしこりすがとんできて、落ち葉にくるんでおんぶして、いそいでお山につれてった」という歌である。こりすが池に入るのか、そのどんぐりを食べるのでは？というちょっと現実的な疑問はとりあえずさておき、この

微笑ましい情景を思いうかべると思わず心がなごみくちずさんでみたくなる。

時代とともに自然も環境も人の心も様々な今日この頃であるが、こうした童謡の誰にでも親しまれる歌の心はいつまでも大切にしたい、と思うある日の昼下がりである。

（藤井 貞子）

編集後記

今年度、3年生はゼミナールも始まり、幼稚園実習に行きました。そして、2年生は保育所実習・施設実習へ、1年生はインターンシップに行きました。それぞれが様々な経験をし、多くのことを学んできたと思います。それらの体験を活かし、これからも各々が目標を持ち、日々努力していきます。

学生運営委員

- 3年生 池田康輔、漆川 彩、高野昌幸、原田侑佳、福塚萌子、水田陽香、山崎由紀乃、山田祐子
2年生 古川唯一
1年生 乙倉里衣、東 智子

教員編集委員

竹中伸夫、本田真美、村田恵子